

【 診療科:血液内科】  
 【 レジメン登録番号:IG-55 】

## 〈 ビダーザ療法 〉

	投与量	投与経路	投与スケジュール(day)															
			1	2	3	4	5	6	7	.....	28							
ビダーザ	75mg/m <sup>2</sup>	div, sc	○	○	○	○	○	(○)	(○)									

【1コース期間: 28日】      【総コース数: コース】

【適応癌種: 骨髄異形成症候群      】

【時期: 術前、術後、手術不能・進行・再発】

【休薬・減量に関する要件】

項目	基準	減量内容	休薬時の再開基準

### 投与プロトコール

【div: day1-5 (7)】

Rp	薬剤名	投与経路(速度)
Rp.1	5-HT <sub>3</sub> RB	div(全開で)
	生理食塩水 50mL	
Rp.2	ビダーザ 75mg/m <sup>2</sup>	div(10分かけて) <sup>※1</sup>
	注射用水 10mL/1バイアル	
	生理食塩水 50mL	
(Rp.3)	生理食塩水 50mL	div(必要に応じ、フラッシュする)

【sc: day1-5 (7)】

Rp	薬剤名	投与経路(速度)
Rp.1	5-HT <sub>3</sub> RB	p.o.(必要時)
Rp.2	ビダーザ 75mg/m <sup>2</sup>	s.c. <sup>※2</sup>
	注射用水 4mL/1バイアル	

【参考文献: Journal of Clinical Oncology Vol.20 No.10(May 15), 2002;pp2429-2440      】

【備考※1: [点滴静注の場合]薬剤混合調製後、1時間以内に投与を終了させること(薬剤の安定性が低下するため)

【備考※2: [皮下注の場合]

原則として1患者に1本のシリンジで払出を行う。

投与直前に均一に再懸濁させること。

薬剤混合調製後、1時間以内に投与を終了させること(薬剤の安定性が低下するため)。

懸濁液は冷蔵条件下(2~8℃)で8時間まで保存することができる。冷蔵条件から取り出した懸濁液は、30分以内に投与することとし、室温に戻した後に再懸濁し投与すること。      】

【変法情報: 5日間のみ投与とする場合がある。      】